

切除不能膵癌に対する 最新の化学療法

～ FOLFIRINOXやGem+nab-PTX ～

国立研究開発法人国立がん研究センター東病院肝胆膵内科 池田 公史

KEY WORDS

- 切除不能膵癌
- 化学療法
- FOLFIRINOX
- gemcitabine plus nab-paclitaxel

Update of chemotherapy for unresectable pancreatic cancer (FOLFIRINOX and Gem+nab-PTX).

Masafumi Ikeda (科長)

はじめに

転移性膵癌に対して、FOLFIRINOX¹⁾やゲムシタビン+ナブパクリタキセル(Gem+nab-PTX)²⁾などのレジメンでゲムシタビン単剤(Gem)と比較して有意に良好な生存の延長が示され、これまで効かないといわれてきた膵癌の化学療法も奏効が期待できるようになった。すでにわが国で承認されているGem, S-1単剤, Gem+エルロチニブなどのレジメンと比べても、治療成績も格段に向上してきている。今後、この2つのFOLFIRINOXやGem+nab-PTXのレジメンをどのように使い分けていくのかを検討していくことも必要である。また、両レジメンとの併用療法や、両レジメン以外にも期待され、開発が進んでいるレジメンもある。本稿では、FOLFIRINOXとGem+nab-PTXを中心に、膵癌に対して期待されているレジメンなど、膵癌の化学療法の最新情報を中心に解説する。

I. FOLFIRINOX

2010年に転移性膵癌の一次化学療法患者を対象として、FOLFIRINOX療法[5-フルオロウラシル(5-FU)+オキサリプラチン+イリノテカン+ロイコボリン(LV)]とGemを比較した第Ⅲ相試験(ACCORD11試験)結果が報告された¹⁾(表)。GemとFOLFIRINOXの生存期間(中央値)は、それぞれ6.8ヵ月と11.1ヵ月で、ハザード比は0.57と、FOLFIRINOX群において有意な延長($p<0.001$)を示した(図1)。また、奏効割合と無増悪生存期間においても、FOLFIRINOX群で有意に良好な成績が報告され、標準治療として位置づけられた。わが国においても、転移性膵癌患者を対象としたFOLFIRINOX療法の第Ⅱ相試験が行われ³⁾(表)、生存期間(中央値)は10.7ヵ月、無増悪生存期間(中央値)は5.6ヵ月、奏効割合は38.9%と海外の試験とほぼ同等の成績が報告され、2013年12月、わが国で